

<活動報告>

特別市民セミナー

核兵器と戦争の 根絶を目指して

核兵器と戦争の根絶を目指して、全国で様々な取り組みをなさっている方々がいます。

本講演会では、立命館大学国際平和ミュージアムの館長として活躍されているモンテ・カセム教授を講師にお迎えし、その取り組みについてお聞きします。

また、今年11月に長崎で開催された「バグウォッシュ会議」の報告も行います。

2015年
12月19日(土)
15:00-17:00

会場

国立長崎原爆死没者
追悼平和祈念館
交流ラウンジ(地下2階)
事前申し込み不要

特別公演

「サステナビリティ学の視点から見た平和と繁栄」
—立命館国際平和ミュージアムの今後を考える

立命館大学国際平和ミュージアム館長
モンテ・カセム 教授



1947年生まれ。70年スリランカ大学建築学科卒。72年大阪外国語大学日本語プログラム修了。82年東京大学大学院工学系研究科博士課程都市工学専攻単位取得。2004年～2009年まで立命館アジア太平洋大学長を務めた。現在は、立命館大学、立命館アジア太平洋大学の名誉教授であり、立命館大学国際平和ミュージアム館長を務めている。

バグウォッシュ会議報告



長崎大学核兵器廃絶研究センター長
鈴木 達治郎 教授

1951年生まれ。75年東京大学工学部原子力工学科卒。78年マサチューセッツ工科大学プログラム修士修了。工学博士(東京大学)。2010年1月より2014年3月まで内閣府原子力委員会委員長代理を務めた。2014年4月より長崎大学核兵器廃絶研究センター勤務。2015年4月より現職。核兵器と戦争の根絶を目指す科学者集団バグウォッシュ会議評議員として活動を続けている。



主催：核兵器廃絶長崎連絡協議会(PCU-NC)
共催：長崎大学核兵器廃絶研究センター(RECNA)

お問い合わせ：核兵器廃絶長崎連絡協議会事務局

〒852-8521 長崎市文教町 1-14
Tel. 095-819-2252 / Fax.095-819-2165

特別市民セミナー「核兵器と戦争の根絶を目指して」

日時:2015年12月19日(土)15:00~17:00

場所:国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館 交流ラウンジ

講師:鈴木 達治郎 教授(長崎大学核兵器廃絶研究センター長)

モンテ・カセム 教授(立命館大学国際平和ミュージアム館長)

主催:核兵器廃絶長崎連絡協議会(PCU-NC)

共催:核兵器廃絶研究センター(RECNA)



講演をする鈴木教授



講演をするカセム教授

11月に長崎でパグウォッシュ会議が開催されました。その報告を RECNA センター長である鈴木達治郎教授が行いました。会議の報告では、会議の趣旨や歴史を説明し、今回の会議の概要を報告したあと、会議後に発表された「長崎を最後の被爆地に」から始まる長崎宣言についてその意義について説明しました。またパグウォッシュ会議と RECNA の連携を図り北東アジアの信頼醸成に取り組むこと等を説明しました。

その後、特別講演「サステナビリティ学の視点から見た平和と繁栄—立命館国際平和ミュージアムの今後を考える」として立命館大学国際平和ミュージアムの館長であるモンテ・カセム教授においでいただきました。特別講演では、タイトルにあるサステナビリティ学の説明からこれまで「いのちのゆりかご」の上の生物がとても不安定にあることを話されました。経済を最優先する現代社会の考え方は核兵器の保持にもつながることを示されました。また、平和ミュージアムの取り組みとして「心の支配」をテーマに日英共同プロジェクトを開始したことをご紹介いただきました。

講演会には約50名が参加し、質疑応答では、多くの質問が寄せられました。

被爆70年記念 特別市民セミナー

核テロは 防げるか ：核の密輸問題と不拡散

現在の不安定な世界情勢を考えると、「もし核を使ったテロが発生したら…」という不安を抱く人がいても不思議ではありません。核兵器の製造に使われる核分裂性物質や関連技術は、いくつもの国際条約により、厳重に規制されています。しかし、それにもかかわらず、核物質や技術を密かに取引する「核の闇市場」のうわさは絶えません。果たしてその現状はどうなっているのか、核物質や技術の不法な流出は防止できるのか、国際的な専門家の意見を直接聞くことのできる貴重な機会です。

入場無料・事前申込不要

2016年
1月8日[金]
18:30~20:00

会場 / 長崎歴史文化博物館1階ホール

長崎市立山1丁目1-1 長崎県営バス「歴史文化博物館」バス停下車



講師

エレナ・ソコヴァ 教授

ジェームズ・マーティン不拡散研究センター副所長

モスクワ州立大学およびモントレー国際大学で修士号を取得。ロシア外務省勤務、ジェームズ・マーティン不拡散研究センターCIS 不拡散プログラム代表、ウィーン軍縮・不拡散センター(VCDNP)センター長を経て現職。専門分野は、ロシアを含む旧ソ連圏における不拡散問題、核および放射性物質の非合法取引、核物質セキュリティ、核燃料サイクル、不拡散教育及びトレーニング。

主催：核兵器廃絶長崎連絡協議会 (PCU-NC)
共催：長崎大学核兵器廃絶研究センター (RECNA)

お問い合わせ：核兵器廃絶長崎連絡協議会 事務局

〒852-8521 長崎市文教町 1-14
Tel. 095-819-2252 / Fax. 095-819-2165



被爆 70 周年特別市民セミナー 「核テロは防げるか:核の密輸問題と不拡散」

日時:2016 年 1 月 8 日(金)18:30~20:00

場所:長崎歴史文化博物館 1 階ホール

講師:エレナ・ソコヴァ 教授(ジェームズ・マーティン不拡散研究センター副所長)

主催:核兵器廃絶長崎連絡協議会(PCU-NC)

共催:核兵器廃絶研究センター(RECNA)



講演をするソコヴァ教授



会場の様子

「核テロは防げるか:核の密輸問題と不拡散」というタイトルのもと、ジェームズ・マーティン不拡散研究所の副所長であるエレナ・ソコヴァ先生にご講演いただきました。講演では、核テロリズムの 4 つのシナリオ(「核兵器所有国から既存の核兵器・爆弾を窃取し使用」「核分裂性物質を窃取又は購入し、簡易核兵器を製造」「核施設への攻撃」「放射性物質散布装置または放射能放出装置の製造及び爆破」)を示されました。また、核物質が現在どのように使用され、不正に取引されているのかを説明されました。さらに、現実には「イスラム国」のようなテロ組織が核兵器を使用したテロを実行できる可能性は低いものの、核テロをテロの手段として肯定しているグループもあり、警戒を怠るべきではないという点を強調されました。最後に現状の問題点として、「核の密輸が摘発されない可能性」や「多くの国で核セキュリティの文化が根付いていない」ことを話されました。

講演会には約60名が参加し、質疑応答では、多くの質問が寄せられました。

被爆70年記念 特別市民セミナー

非核の選択

～モンゴルの挑戦と北東アジアへの教訓～

ロシア、中国という核保有国にはさまれたモンゴルは、「一国非核兵器地帯地位」を国際社会に認めさせるという、世界に例をみないユニークな政策で注目を集めました。核保有国から「核兵器で威嚇、攻撃しない」という安全の保証を取り付けることで、核に頼らない安全保障を実現しようとしたものです。

本セミナーでは、この政策の立役者であるモンゴル大使らとともに、モンゴル非核政策の経緯と意義をあらためて問い直し、さらに「ウランバートル・プロセス」という、北朝鮮も参加する民間外交の場についてもお話しいたできます。それらを踏まえ、今後の北東アジア、そして日本の進むべき道を考えます。

北朝鮮の四度の核実験という局面を迎えた今こそ、モンゴルの選択から私たちが学べることは大きいのではないのでしょうか。ぜひぶるってお越しください。

2016年
2月29日(月)
18:00-20:00
会場：長崎原爆資料館平和学習室
(長崎市平野町7番8号)
※専用駐車場はございませんので、公共交通機関をご利用ください。
入場無料・事前申込不要
同時通訳有

講師

モンゴル特命全権大使
ジャルガルサイハン・エンクサイハン 氏

モンゴル特命全権大使。NGO「ブルーバナー」理事。モンゴル大統領の外交政策顧問として、モンゴルの「一国非核兵器地位」を提唱し、国連総会決議「モンゴルの国際安全保障と非核兵器地位」(1998)によって国際的な承認を勝ち取った。その後、その制度化に取り組み5核兵器国の共同声明(2012)を生んだ。ニューヨーク国連本部モンゴル代表、国際原子力機関(IAEA)総会議長などを歴任。外交官を引退後も、公私にわたり核軍縮・不拡散の分野で活躍している。



コメンテーター

ビクトリア大学教授、オーストラリア
マイケル・ハメル=グリーン 氏



オーストラリア大学、メルボルン校教養学部名誉教授。2008年～12年、教養・教育・人間発達学部学部長。国際安全保障、紛争解決、コミュニティ開発などの科目で教鞭をとった。研究テーマは、非核兵器地帯、核不拡散、多国間外交交渉。近著には、「地域協力とグローバルな非核化：多国間非核兵器地帯イニシアティブ」J. クノップ編「大量破壊兵器の不拡散における国際協力」(ジョージア大学出版、2016年)他がある。

バグウォッシュ会議評議員、中国
潘 振強(パン・ツワンチャン)氏



バグウォッシュ会議評議員。中国改革開放フォーラム(CRF)上級顧問。中央財経大学戦略マネジメント研究所所長(中国・北京)、中国国防大学国防研究科顧問など、多くの要職を務める。1963年に中国人民解放軍に入隊、20年以上にわたって総参謀部に在籍した。1986年以降、2001年の退役まで、国防大学戦略研究所研究員、副所長、所長などを歴任。米国防大学(1987年)、スタンフォード大学(1988-1989年)、ハーバード大学(1999年、2000年)、ジョージア大学(2014年)等の研究員も務める。

主催：長崎大学核兵器廃絶研究センター(RECNA)
共催：核兵器廃絶長崎連絡協議会(PCU-NC)
お問い合わせ：核兵器廃絶長崎連絡協議会事務局
〒852-8521 長崎市文教町1-14
Tel. 095-819-2252 / Fax.095-819-2165

被爆 70 周年特別市民セミナー

「非核の選択～モンゴルの挑戦と北東アジアへの教訓～」

日時:2016年2月29日(月)18:00～20:00

場所:長崎原爆資料館平和学習室

講師:ジャルガルサイハン・エンクサイハン氏(モンゴル特命全権大使)

主催:核兵器廃絶長崎連絡協議会(PCU-NC)

共催:核兵器廃絶研究センター(RECNA)



講演をするエンクサイハン氏



会場の様子

「非核の選択～モンゴルの挑戦と北東アジアの教訓～」というタイトルのもと、モンゴル特命全権大使にご講演いただきました。その後、オーストラリアのビクトリア大学教授であるマイケル・ハメル＝グリーン氏、中国のパグウォッシュ会議評議員である潘振強(パン・ツウンチャン)氏にコメントをいただきました。講演では、ロシア・中国という大国に挟まれたモンゴルという小国が「非核兵器地帯」という地位を確立したことについてお話いただきました。そのことで、本当の意味での独立を創り上げ、現在はどんな国とも良い関係を持つことができていることを示されました。また、どんな小さな国でも声を上げ続けなければならないことを強調されました。その後、ハメル＝グリーン氏は他の多くの地域で「非核兵器地帯」を確立させることが重要だとコメントし、潘氏は「非核兵器地帯」でモンゴルが他国と良い関係を構築していることはとても感銘深いことだと述べました。

講演会には約50名が参加し、質疑応答では、多くの質問が寄せられました。